

# 大阪市の犯罪情勢

## 大阪府警察の取組

「大阪重点犯罪」と「署指定犯罪」を重点犯罪とした「地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止総合対策」について、検挙及び防犯の両面にわたる総合的な警察活動を戦略的に展開するとともに、自治体、事業者、地域住民等と連携・協働したオール大阪体制で犯罪の起きにくい安全なまちづくりを推進しています。

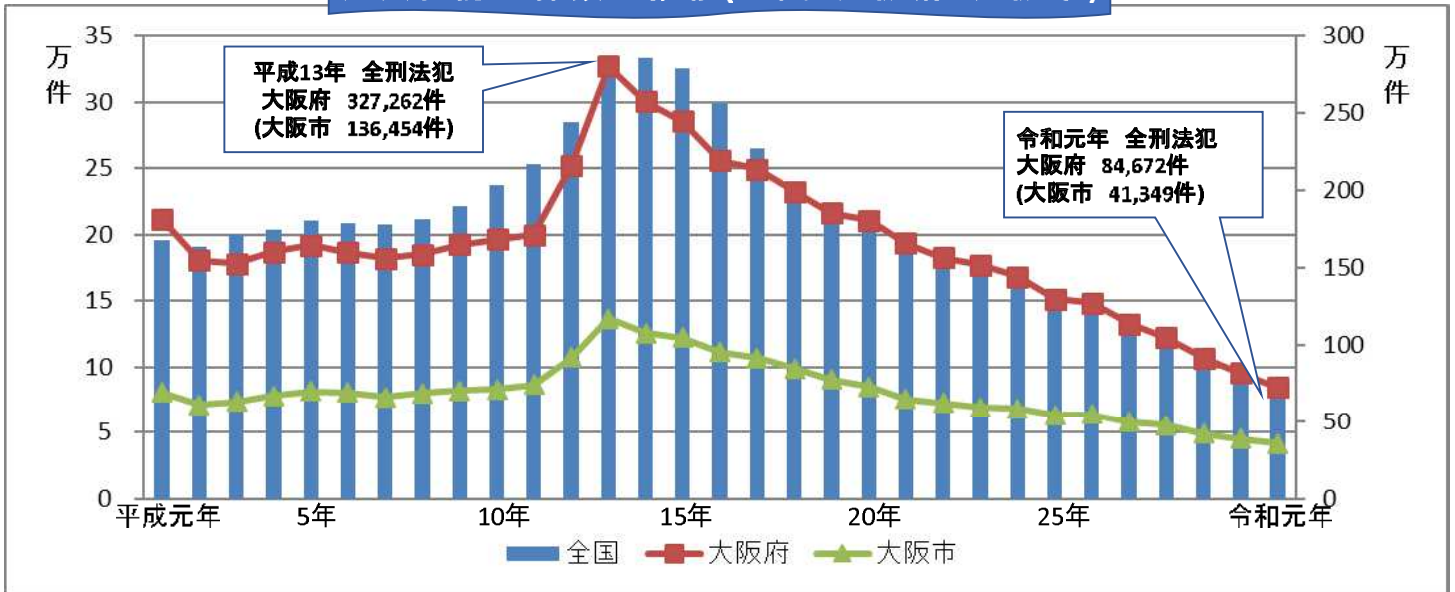
### 大阪重点犯罪

- ▶ 子どもや女性を狙った性犯罪  
(強制性交等・強制わいせつ・公然わいせつ・痴漢)
- ▶ 特殊詐欺
- ▶ 自動車関連犯罪  
(自動車盗・車上ねらい・部品ねらい)

### 署指定犯罪

大阪重点犯罪以外で、警察署管内の発生状況から地域住民等の安全・安心を脅かし、課題等となっている犯罪のうちから、警察署長が指定する犯罪

## 刑法犯認知件数の推移(全国・大阪府・大阪市)



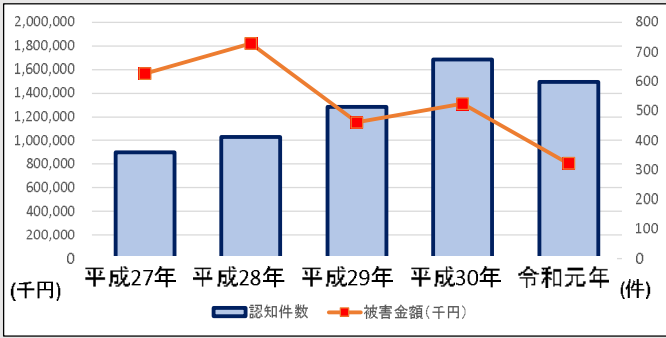
## 大阪重点犯罪等の認知件数

	全刑法犯	強制性交等	強制わいせつ	公然わいせつ	特殊詐欺	自動車盗	車上ねらい	部品ねらい	ひったくり	路上強盗
平成30年	45,015	76	318	126	673	482	3,716	1,473	229	56
令和元年	41,349	79	294	163	598	277	2,511	1,260	152	46
(対前年増減率)	-8.1%	3.9%	-7.5%	29.4%	-11.1%	-42.5%	-32.4%	-14.5%	-33.6%	-17.9%
府全体の件数	84,672	136	605	333	1,807	952	4,879	3,340	254	73
府全体に占める割合	48.8%	58.1%	48.6%	48.9%	33.1%	29.1%	51.5%	37.7%	59.8%	63.0%
令和2年5月末	13,776	41	89	68	112	118	1,022	468	51	11
府全体の件数	28,155	66	168	114	447	363	1,934	1,235	72	25
府全体に占める割合	48.9%	62.1%	53.0%	59.6%	25.1%	32.5%	52.8%	37.9%	70.8%	44.0%

※「特殊詐欺」及び令和2年5月末の数値は暫定値を示す。

# 大阪市内の特殊詐欺の情勢

## 大阪市内(府)過去5年の被害状況推移



		H27年	H28年	H29年	H30年	R元年
認知件数	大阪府	1,170	1,633	1,596	1,771	1,807
	大阪府内	360	411	513	673	598
被害金額(千円)	大阪府	4,173,771	5,261,211	3,760,201	3,748,142	2,512,603
	大阪府内	1,566,992	1,821,793	1,151,559	1,311,333	804,856

※ 令和元年は暫定値、平成30年以降は、キャッシュカード詐欺盗を含む。

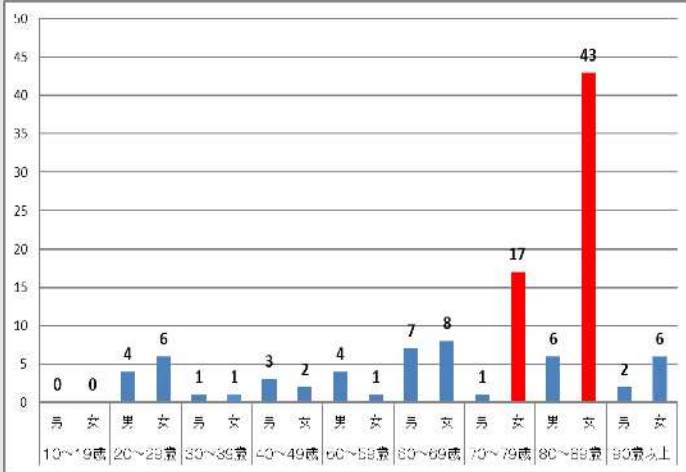
## 手口別被害状況

※ これより下の資料は、全て令和2年1月～5月の暫定値を示す。

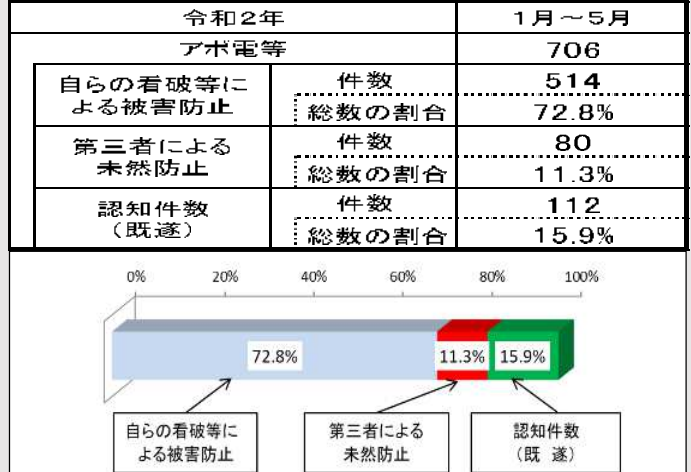
手口	認知件数				被害金額			
	令和2年 (1-5月)	令和元年 (1-5月)	増減		令和2年 (1-5月)	令和元年 (1-5月)	増減	
	件数	件数	件数	増減率	千円	千円	千円	増減率
<b>特殊詐欺全体</b>	<b>112</b>	<b>204</b>	<b>-92</b>	<b>-45%</b>	<b>178,934</b>	<b>327,706</b>	<b>-148,772</b>	<b>-45%</b>
オレオレ詐欺	6	42	-36	-85%	9,310	138,500	-129,190	-93%
預貯金詐欺	53	53	0	0%	72,324	52,581	19,743	38%
架空料金請求詐欺	25	31	-6	-19%	62,817	36,295	26,522	73%
融資保証金詐欺	9	5	4	80%	4,791	6,549	-1,758	-27%
還付金詐欺	3	31	-28	-90%	4,430	38,606	-34,176	-89%
キャッシュカード詐欺盗	14	41	-27	-66%	24,170	55,165	-30,995	-56%
上記以外	2	1	1	100%	1,092	10	1,082	10820%

(単位:千円)

## 被害者の年齢別・男女別認知



## 未然防止の状況



## 大阪市内における最近の傾向等

- ・令和元年は前年と比較して、認知件数は75件、被害金額は約5億円減少した。
- ・令和2年5月末現在では、前年同時期比で特殊詐欺全体の認知件数、被害金額ともに約45%減少している。
- ・令和2年5月末現在、手口別認知件数では、前年同時期比、多くの手口で減少しているが、預貯金詐欺(前年比±0件)や架空請求詐欺(前年比-6件)等は減少率が低く、被害金額は増加している。
- ・被害者の年齢別男女別では、80歳代女性が突出して多く、70歳代以上の被害が全体の約70%を占めた。(60歳代以上では約80%)
- ・アポ電等のうち、自らの看破等と第三者による未然防止で80%以上を占めている。
- ・第三者による未然防止のうち、家族・親族以外では、金融機関職員、コンビニ店員、友人・知人で40%を占めている。

## 未然防止者(第三者)の内訳

